

# 1949年8月20日(土) 決勝

時間 2時間(13時~15時)  
審判 高瀬/久保田/桜井/永田

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	盗塁失策
湘南(神奈川)	0	0	0	1	0	2	0	2	0	5	2 4
岐阜(岐阜)	0	2	1	0	0	0	0	0	0	3	1 6

湘南	(一)	岡本 英二	3	四球		四球		三振	投犠		二安
	(三)	脇村 春夫	2	三振		三ゴ		四球	三振		中飛
	(中)	根本 功	2	四球		三邪		死球	三飛		左安
	(投)	田中 孝一	主将 3	三振		三振		三併	投ゴ		四球
	(捕)	平井 勤	1	三振		右飛		四球	三振		左安
	(遊)	宝性 一成	3	捕邪		左安		三失	左安		投ゴ
	(左)	佐々木信也	1	遊ゴ		中二		二失	中安		遊飛
	(右)	原田 靖男	1	三振		三ゴ		一ゴ	右飛		
	(二)	古家 了	3			三振		四球	一失		捕邪
	(投)	田中 孝一		9	37	8	3	2	1		

岐阜	(二)	服部 昌三	3	右安		四球		四球		三ゴ	投ゴ
	(捕)	部田 章	3	犠野	右安		投併		三振		中飛
	(投)	花井 悠	2	左安		三飛		三失	中飛		
	(中)	森 和彦	3	遊ゴ		中安		三犠		二安	
	(左)	河合 保彦	1	右飛		左安		三振		捕邪	
	(投)	田中 照雄	1								
	(三)	福永 武司	3	投ゴ		右安		二失		投ゴ	
	(一)	細川 禎正	主将 3	一邪	投ゴ				中飛		投飛
	(遊)	稲木 昇	2	三ゴ		三失		左飛		一邪	
	(右)	今尾 東雄	3	遊安		投犠		左飛		三振	
(投)	花井 悠		8½	40	6	9	8	1			
(投)	田中 照雄		¾	3	1	0	0	0			



開会式では西宮市立建石高(現・市西宮高)の女子生徒が初めてプラカード係を務めた=8月13日

### 戦後の初出場優勝校と決勝スコア

大会	年度	優勝校	スコア	準優勝校
31回	1949年	湘南(神奈川)	5-3	岐阜(岐阜)
37回	1955年	四日市(三重)	4-1	坂出商(香川)
47回	1965年	三池工(福岡)	2-0	銚子商(千葉)
50回	1968年	興国(大阪)	1-0	静岡商(静岡)
53回	1971年	桐蔭学園(神奈川)	1-0	磐城(福島)
58回	1976年	桜美林(西東京)	4-3	PL学園(大阪)
73回	1991年	大阪桐蔭(大阪)	13-8	沖縄水産(沖縄)
95回	2013年	前橋育英(群馬)	4-3	延岡学園(宮崎)

# あの夏 1949年 湘南 × 岐阜 1



大優勝旗を手にした湘南の田中主将

岐阜の正一 花井

# 創部4年目 奇跡の快進撃

今年で戦後70回目を数えた夏の全国高校野球選手権大会。その間、全国選手権初出場でききなり優勝したチームは8校しかない。

1949(昭和24)年の湘南(神奈川県藤沢市)は、創部4年目の奇跡だった。

「当時はバックネットもなくてね。竹の棒でネットを張ってましたよ」。三塁を守った脇村春夫(83)が懐かしむ。東京六大学の東大、社会人野球の東洋紡でも活躍。2

002508年には第5代日本高校野球連盟会長を務めた。神奈川県下で6番目の県立旧制中学として1921(大正10)年に開校。それまでの5校には戦前からあった野球部が、なぜか湘南には20年以上も存在しなかった。

「サッカーが校技だったです。球技大会も必ずサッカー。それほど盛んでした」と脇村。当然のようにサッカー部は強豪で、終戦の翌46年に近畿地方で開催された第1

回国民体育大会で、一足先に全国優勝を果たしている。野球部ができるまで、グラウンドを分けて使用した。「だからサッカー部とは仲が悪かった」と笑うのは1年生左翼手として活躍した佐々木信也(82)。慶大を経てプロ入りし、26歳で現役引退。「プロ野球ニュース」(フジテレビ系列)のキャスターとしてお茶の間で親しまれた。当時の思い出話をする際の鉄板ネタがある。「サッカー

部に、背のつかい嫌なやつがいたんですね。そいつにぶつけてやろうと右中間を狙って打っていたら、流し打ちがうまくなった。それが石原慎太郎(88)だったんです」

もちろん、仲が悪かったわけではない。佐々木が大映ユニオンズでプレーした57年、月刊誌「文芸春秋」11月号の「同級生交歓」に、芥川賞作家となった石原がメッセージを寄せた。「佐々木は八重歯の印象からデモン(悪魔)のニックネームで皆の人気者だった。(中略)彼の流麗な守備、味のある打撃を買うのがホンモノの玄人である」

佐々木は現在の東京都世田谷区で育った。戦争が始まり、東京から南南西に約50キロ離れた藤沢市へ。自宅の庭には防空壕があったが、空襲被害は少なかった。「B29が相模湾から飛んでくる。しばらくすると西の平塚、東の横浜の空が赤く染まるんです」

4番エースで主将も務めた田中孝一(84)は、都立第六中(現・新宿高)から終戦直前に湘南へ。脇村も東京から

戦後間もない混乱期。運命に吸い寄せられるように好選手が集まった。できたばかりの野球部を指導するのは佐々木の父・久男。慶大野球部OBの久男は選手の個性を生かし、ノビノビとプレーさせた。神奈川大会決勝では、大沢啓一(元日本ハム監督)を擁する神奈川商工を破り、甲子園でも、のちに「怪童」と呼ばれる強打者・中西太(82)の高松一(香川)にサヨナラ勝ちするなど快進撃を続けた。

決勝の相手は前年4強の岐阜。1883(明治16)年創部という古豪も、戦後の混乱期にもまれて強くなった好チームだった。

このシリーズは編集委員・安藤嘉浩が担当します。(敬称は基本的に略します)

！ 全国高校野球選手権大会の名場面を振り返る「あの夏」の第10シリーズ、1949年の第31回大会決勝「湘南-岐阜」は28日まで計20回(原則火曜~土曜日に掲載)を予定しています。